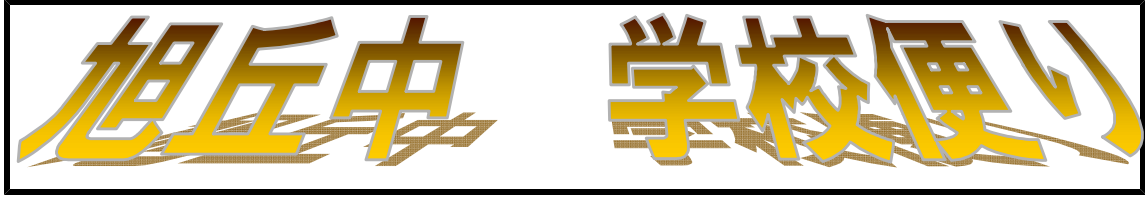


平成 29 年 度



第 7 号

練馬区立旭丘中学校：発行 11月

ほめること

校長 南 俊彦

自分が親から信頼され大切な存在であると感じて育つことは、子供の心の安定や自己肯定感につながる重要な鍵です。親にほめられたことがなく、もっと上を目指すよう叱咤激励されると現状を否定されたような気持ちになります。ほめることは「認める」ことです。「あなたのお陰で〇〇が無事終わったね、ありがとう」とプロセスを含めてほめられると、人は癒やされ、うれしくなります。子供の頑張ろうとする動機付けを高めるために、上手にほめながら子供を育てていきたいものです。

～子供をほめるときの5つのポイント～

①子供の良いところに気付き、タイミング良くほめる。

子供の良いところを見付けタイミング良く、笑顔でほめることは、好ましい行動の定着にもつながります。メモ書きで感謝を伝えるのも心に届く方法です。大人同士でも、厚意を受けた直後にメモやメールでお礼を伝えると、気持ちが伝わり感じが良いものです。

②子供の目線まで下りてしっかり目を見てほめる。

家事や仕事をしながら背中を向けたままほめても、お互いの表情も分からず伝わりません。やさしい眼差しは、言葉以上に印象に残るものです。コミュニケーションにおいて、雰囲気や声のトーン、視線などの影響は実際の言葉や文字以上に大きな役割を果たします。

③身体にそっと触れたりスキンシップをとりながら心をこめてほめる。

言葉だけではなく肩に触れる、手を握るなどして、感動を態度で伝えることが大切です。上手に言葉が見付からない時は、ただ手を握るだけでも気持ちが伝わります。

④結果のみをほめるのではなく、それまでのプロセスや努力をほめる。

結果や成果ばかりをほめ過ぎると、常にそうしなくてはいけないと無理をします。たとえ結果が伴わなくても、プロセスや努力を認め、ほめることで子供は勇気付けられ、自分に安心感をもちます。「テストで60点しか取れなかったね」と言うより「半分以上はできたのだから・・・」と認め、勇気付けてあげたいところです。

⑤「〇〇さんよりよくできたね」と他の子供と比較しない。

子供は自分たちの友達や仲間を批判されることを嫌います。自分が大切に思っている友人を悪く言われると、自分自身が非難されているように思い、かたくなな気持ちになります。また親が人をさげすむ態度そのものに嫌悪を覚えることがあります。他人の悪口や陰口を言わない子供を育てるためにも、ほめるときに他者を引き合いに出すのは避けましょう。叱るときにも他者との比較はやめましょう。「〇〇さんは運動も勉強もできるのに、あなたはどっちもだめじゃない」と言われては、自己肯定感は低くなるばかりです。

どの項目も言葉と態度を一致させて心をこめて無条件にほめることが大切です。

また、ほめることも大切ですが、しっかり叱って善悪の枠を示すことは子供の成長に不可欠です。中学校では集団生活上のルールを学び、集団や社会で生きていくためのスキルを学びます。集団の中で間違ったり失敗したりしても、それを素直に認めて謝罪し、改善することが大切なソーシャルスキルにつながります。そのためには、その行為と人格を一緒にせず、過ちの行為そのものに対しては理由を説明し、しっかり叱ることが重要です。「あなたは本当にだらしない人だ」では人格を否定しています。「忘れ物が多いね。明日から連絡帳を必ず見て気を付けなさい」と具体的に伝えます。そして少しでも改善や成長が見られたときには、タイミング良くほめてあげましょう。子供は必ず成長していきます。

○開校70周年記念式典・祝賀会11月10日(金)

穏やかな天候の中、本校の開校70周年の式典・祝賀会が体育館で盛大に行われました。式典では60名を超える来賓の方が参列してくださり、厳粛な中で実施されました。ドローンで撮影した校舎の様子や生徒たちが屋上で手を振るシーンが収録された記念DVDの映写や生徒会長の誓いの言葉、吹奏楽部の演奏、最後には吹奏楽部の伴奏で校歌も斉唱しました。来賓の方々から生徒の式典に参加する態度が素晴らしいとお誉めの言葉をいただきました。ご協力いただいたPTAの皆様、実行委員会として力を貸していただいた歴代のPTAの皆様、地域の皆様ありがとうございました。



○放課後勉強会 11月13日(月)～17日(金)



定期考査1週間前の放課後勉強会が開催されました。今年度は1学期から開催しているので、生徒は自習の仕方をしっかりと身に付けていて、お手伝いをしてくれる学生ボランティアも手慣れた様子で運営しています。参加人数は1日平均30名～40名程度です。1時間の短い時間ですが、友達の集中して取り組む様子に刺激されて熱心に取り組んでいます。1年生は残り10分ぐらいに集中が切れてしまう生徒もいますが、そんな時は、学生ボランティアが「あと10分です」と声をかけます。

○八校合同文化発表会 11月17日(金)

10月の文化発表会で演じた劇「西遊記」を、練馬文化センターで発表しました。体育館とは広さが違うので何度も練習をして当日を迎えました。今回は八校の取りを務めました。大きな舞台、最後に演じるなどいろいろなプレッシャーもあったと思いますが、堂々と演じることができ、盛大な拍手をいただきました。

